



5 【政策の柱②：交通政策】 「施設を建設すること」から「かしこく使いこなすこと」

- ◎まちづくり政策の「交通軸上市街地集約型」都市圏を支え、また環境にやさしい仙台都市圏の実現のため、交通体系整備の重心を鉄道・バスといった公共交通に移します。
- ◎また、「施設建設」中心の政策から、財政や高齢社会を考慮した「**地域特性を見極めた選択的な施設づくり**」に加えて「**もっと便利になるよう質を向上し、みんなでかしこく使いこなす**」政策へ転換します。

【地域特性を見極めた選択的な施設づくり】

○「交通軸上市街地集約型」のまちを支えるために、

- ・公共交通（鉄道・バス）による利便性の高い交通軸を形成します。
例：交通軸に相応しい便利で信頼性の高い鉄道・バスサービスの提供
- ・公共交通軸周辺のまちをサポートする、地域乗継ぎバス網の整備、および徒歩・自転車の走行環境向上を図ります。
例：鉄道・バスターミナルの整備および周辺市街地からこれらにアクセスする質の高い道路整備により、バス・自転車・徒歩による乗入れを便利・快適にする

さらに加えて

【もっと便利になるよう質を向上し、みんなでかしこく使いこなす】

○「公共交通を便利にする施策」と「クルマの利用を抑える施策」を組み合わせます。

《公共交通を便利にする施策》

- ・市街地の鉄道・バスをもっと便利にします。さまざまな主体が協力しあい、クルマを使わなくても便利に移動できるように、いろいろな施策を効果的に組み合わせる実施します。

例：公共車両優先システム(PTPS)によるバスの定時性・速達性の向上／クルマを停め公共交通で都心に向かうパーク・アンド・ライド／鉄道・バスの利用を便利にする割引運賃の検討／鉄道・バス共通ICカード導入／携帯電話などを使ったダイヤ・運行情報の提供／その他

《クルマの利用を抑える施策》

- ・クルマの集中が大きな問題を起こしている仙台の都心部などでは、クルマでの乗入れを抑制し、便利な鉄道・バスや自転車・徒歩を使いこなすための施策を進めます。

例：都心の広幅員道路空間を再構成して、都市のにぎわい空間や、歩行者・自転車の走行空間を創出(緑陰道路整備)／その他